

決算説明会資料

第46期(平成21年4月～平成22年3月)の業績の概況 …… 1 ～ 6

第47期通期(平成22年4月～平成23年3月)の業績見通し …… 7 ～ 12

平成22年5月

株式会社 **ナガワ**

第46期の(連結)業績概況

1. 全般

補正予算の執行で、公共投資は後半から持ち直したが、民間設備投資、住宅投資とも景気の悪化から2ケタの減少が続き、建設投資全体を見ても2ケタのマイナスとなった。
これらの要因によりユニットハウス市場及び建設機械レンタル市場は大巾に縮小した。

2. 当社の主な取り組み

- (1) レンタルシェア拡大～積極的な設備投資とM&A
- (2) 販売拡大策～空白エリアへの展示場展開と官公庁営業の推進
- (3) 業務効率化～ICタグ導入による在庫管理の時間短縮
- (4) 固定費の削減～運賃、管理費、地代、広告宣伝費etc.

図-1 連結売上高の推移

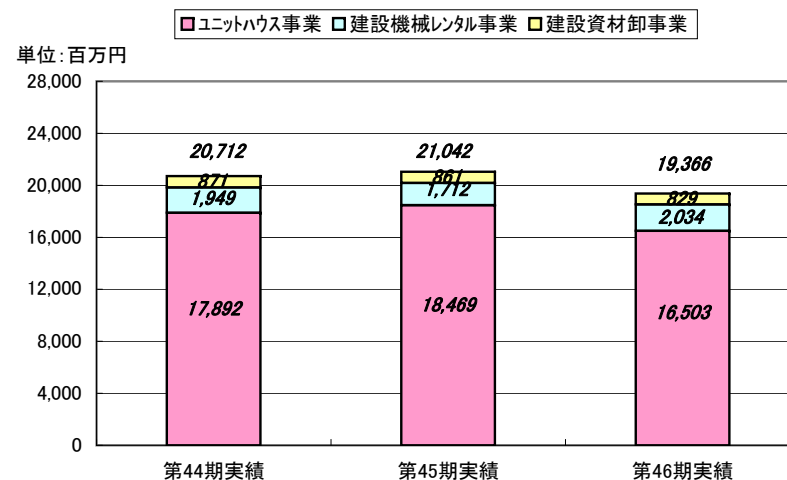
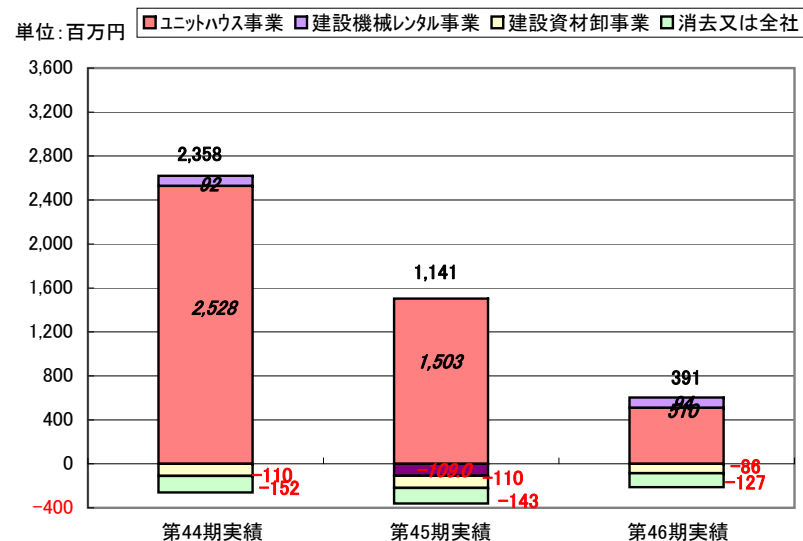


図-2 連結営業利益の推移



3.ユニットハウス事業

(1) 販売

- ① 官公庁営業の推進(入札など)
- ② 販売基準厳格運用により中古販売を絞る
- ③ 法人客への直接営業の推進

図-3 ユニットハウス事業売上高推移

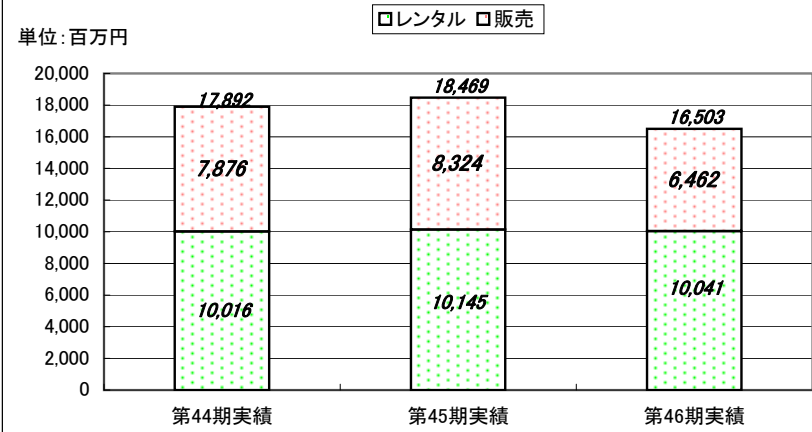
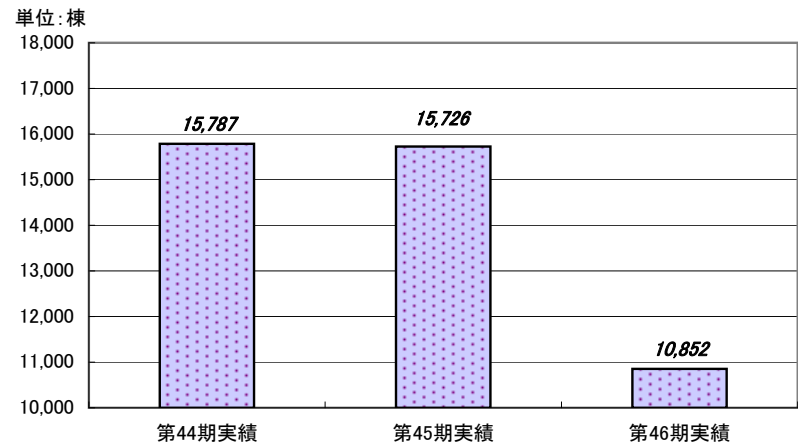


図-4 ユニットハウス販売棟数推移



(1) レンタル

- ① 備品+付帯工事のセット受注強化
- ② 同業他社のM&Aによるシェア拡大
- ③ ゼネコンへの直接営業開始

図-5 期末ユニットハウス貸与保有棟数

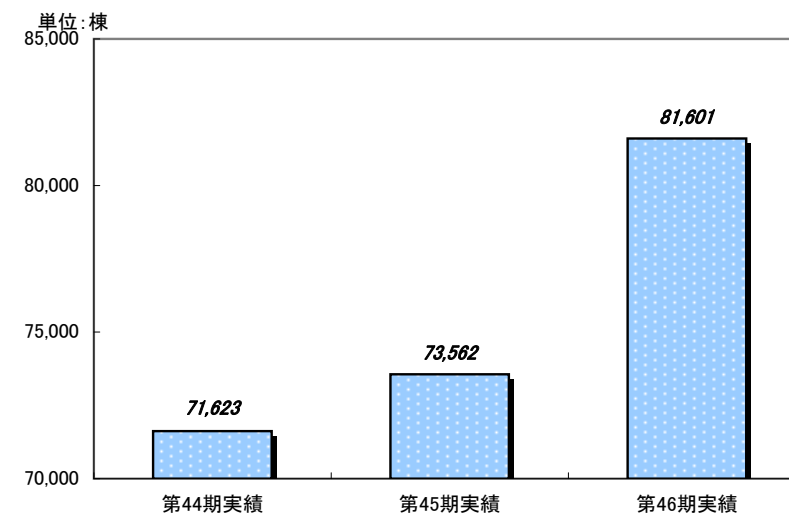
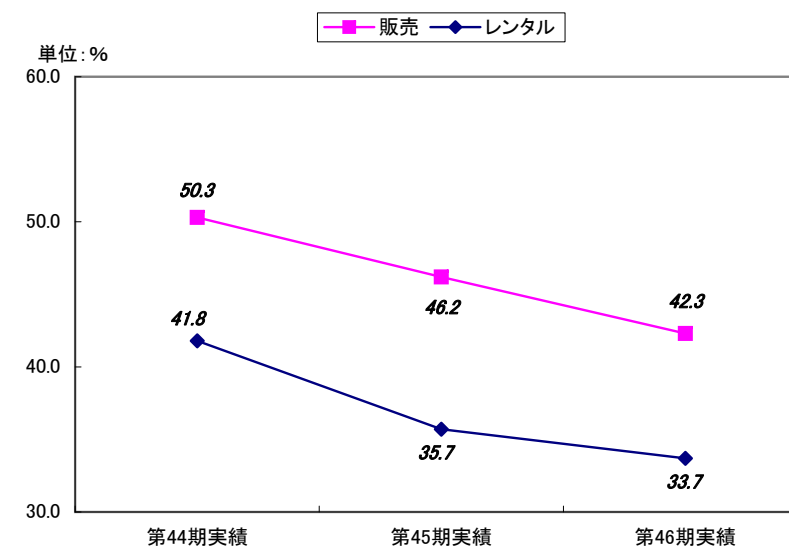


図-6 ユニットハウス事業販売レンタル粗利益表



4.建設機械レンタル事業

(1) 業界動向

北海道南部の建設市場は、第2四半期以降補正予算効果で市場が一時的に拡大。

(2) 当社の取り組み

同業者、異業種企業と組んだ合同展示会などを催し、一般ユーザーの掘り起しを行う一方、「休止」と呼ばれる値引きをpushさえて、実質単価の引き上げを行う。機種別採算管理を強化し、投資の最適化と長期的稼働率の向上を図る。

図-7 建設機械レンタル事業売上高推移

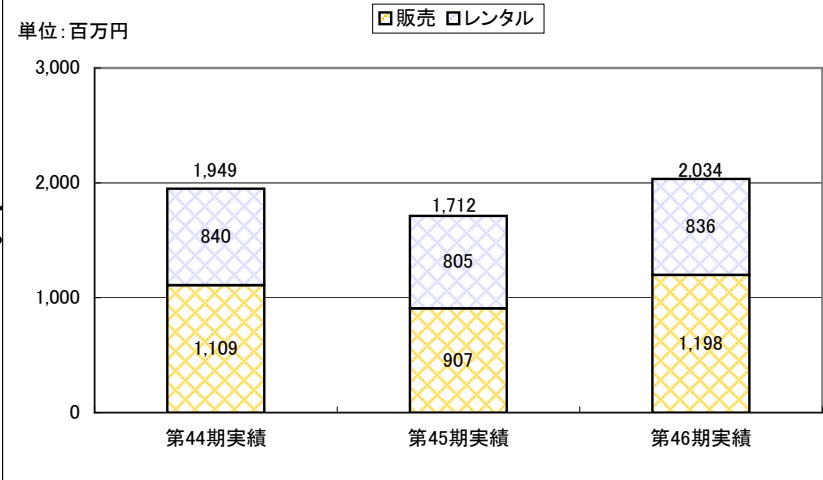
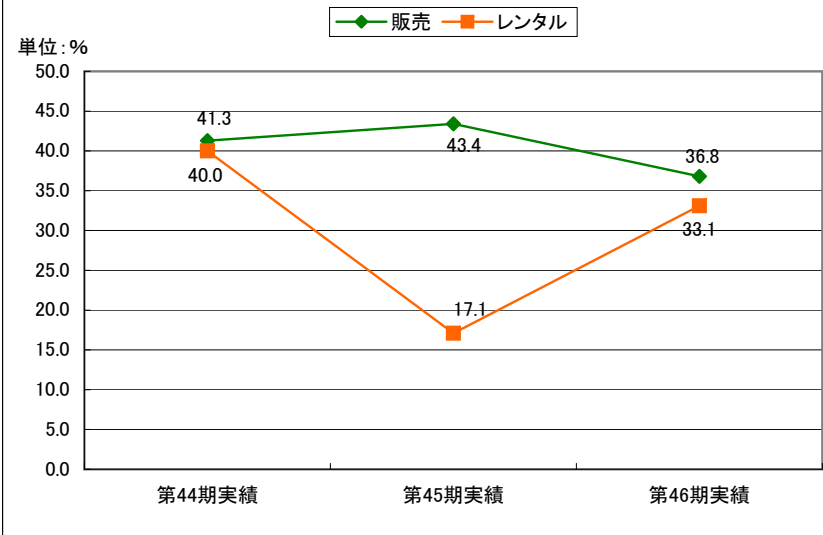


図-8 建設機械レンタル事業販売レンタル粗利益



5.建設資材卸事業

(1) 業界環境

北海道南部の建設市場は、第2四半期以降、補正予算効果で市場が一時的に拡大。

(2) 当社の取り組み

建設機械レンタル事業と連携して優良顧客への販路拡大を図る一方、期後半から不採算の建材販売縮小と固定費の削減を実行し赤字縮小に努めた。

図-9 建設資材卸事業売上高推移

単位:百万円

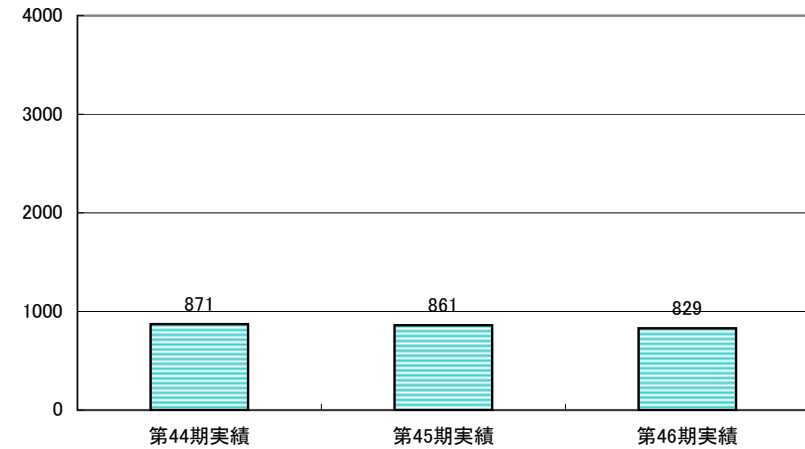
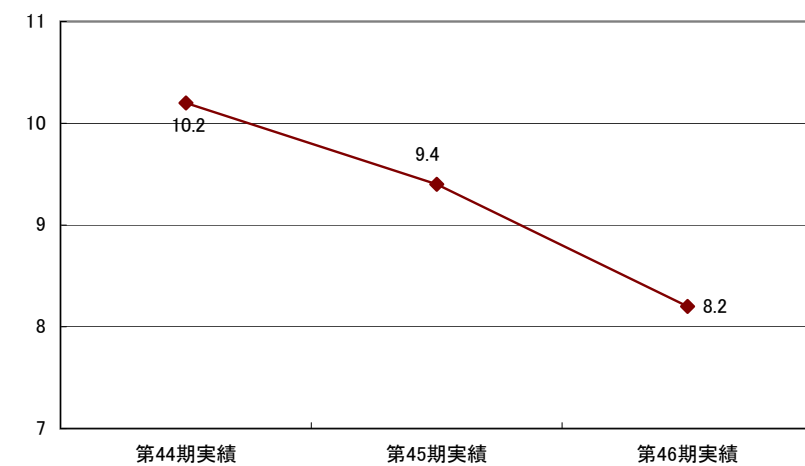


図-10 建設資材卸事業粗利益率推移

単位:%



6.設備投資

- (1) 昨年に続き、レンタルシェア拡大のため高水準の貸与資産(ユニットハウス)投資を継続。
- (2) 在庫管理ソフト開発投資(ICタグ導入)に1.5億円投入

図-11

連結設備投資の推移

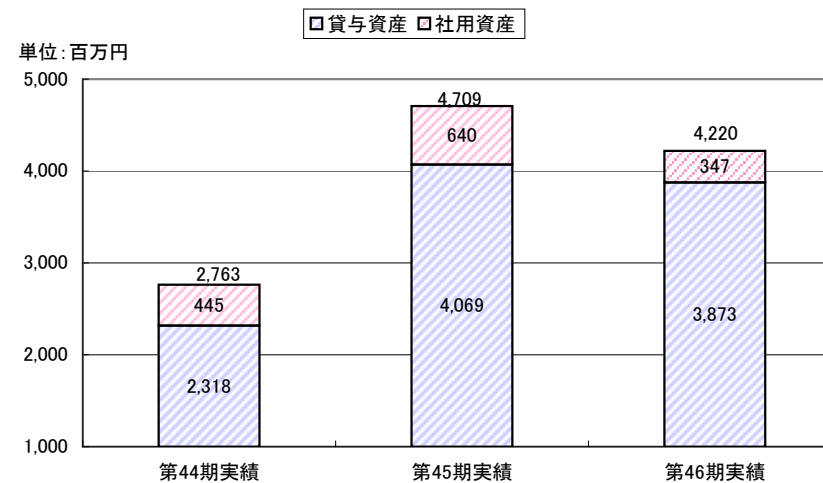
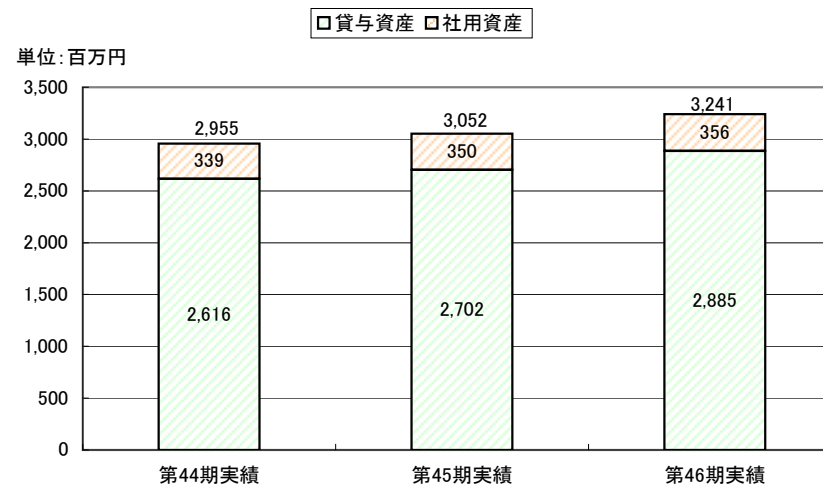


図-12

連結減価償却費の推移



今期の見通し

1. 全般

民間設備投資、住宅投資は回復が見込めるが、公共投資は、補正予算の効果がなくなるほか、継続的な公共工事の削減が重なり、建設市場全体としては昨年に続き2ケタのマイナス成長が見込まれている。従って、ユニットハウス市場及び建設機械レンタル市場は、引き続き厳しい局面が続く見通し

- (1) レンタルシェアにこだわった戦略継続(高水準の貸与資産投資とM&A)
- (2) 一般建築物の受注拡大
- (3) 業務効率の一層の推進

図-13

連結売上高の推移

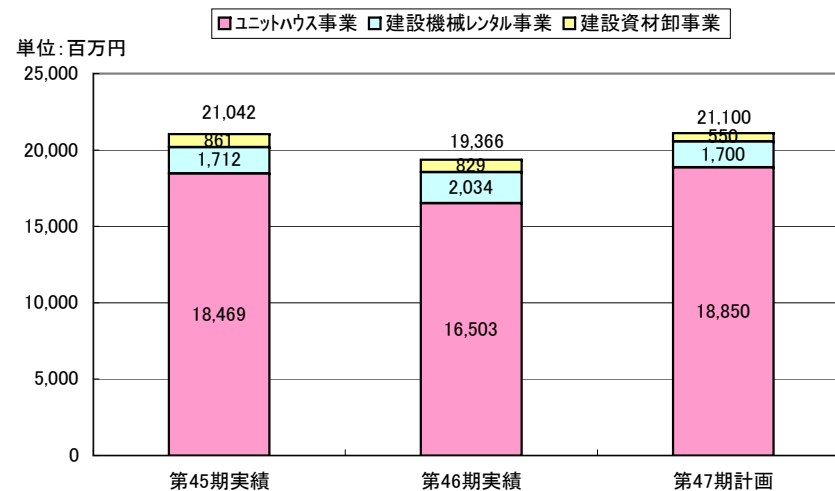
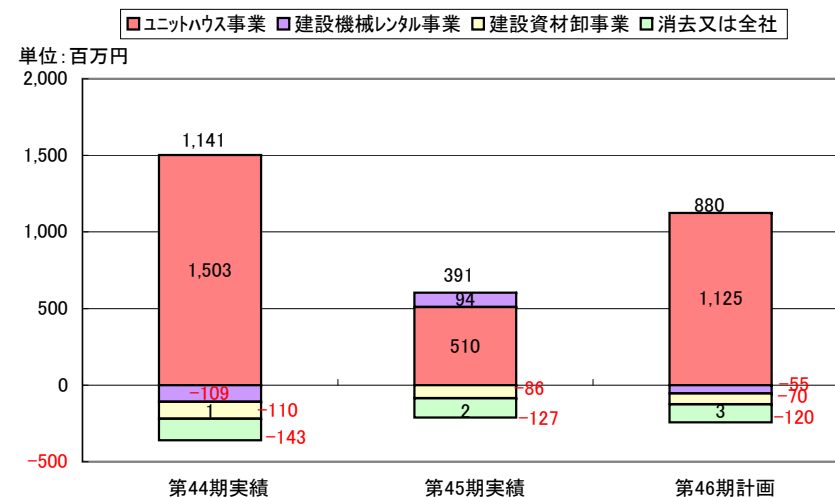


図-14

連結営業利益の推移



2.ユニットハウス事業

(1) 販売

- ① バーチャル展示場の開始(5月～)
- ② 他社買取ハウス(中古)の販売拡大
- ③ 法人客への販売強化(一般建築物件)

図-15

ユニットハウス事業売上高推移

□販売 □レンタル

単位:百万円

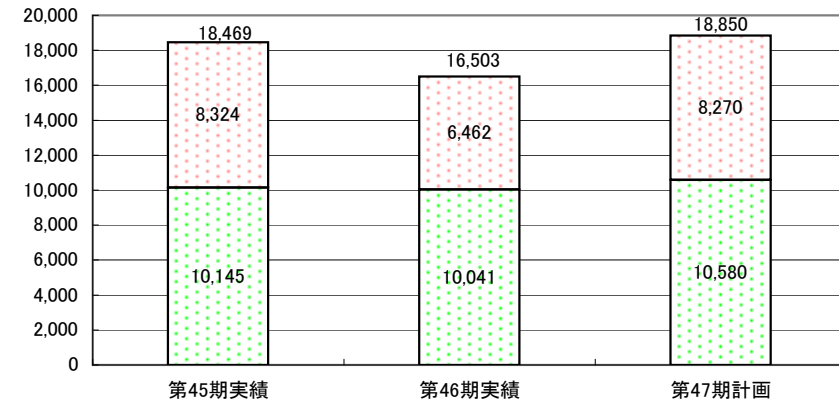
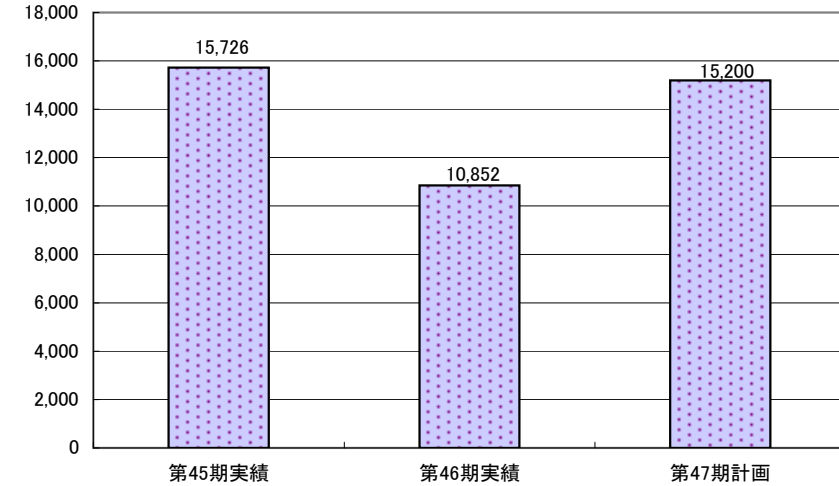


図-16

ユニットハウス販売棟数推移

単位:棟



(2) レンタル

- ① M&Aによるレンタルシェア拡大継続
- ② ゼネコンへの直接営業を本格化し①と同様にレンタルシェアを引き上げていく
- ③ 備品、付帯工事サービスと一体化した受注活動を行い、他社との差別化を図る

図-17 ユニットハウス期末貸与保有棟数

単位:棟

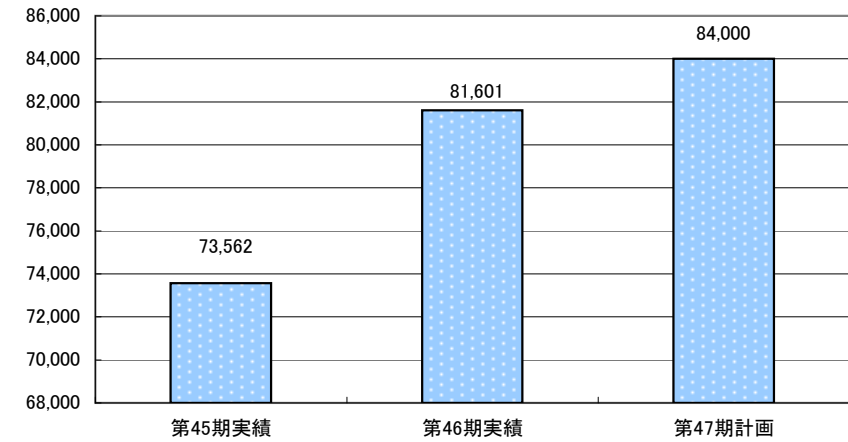
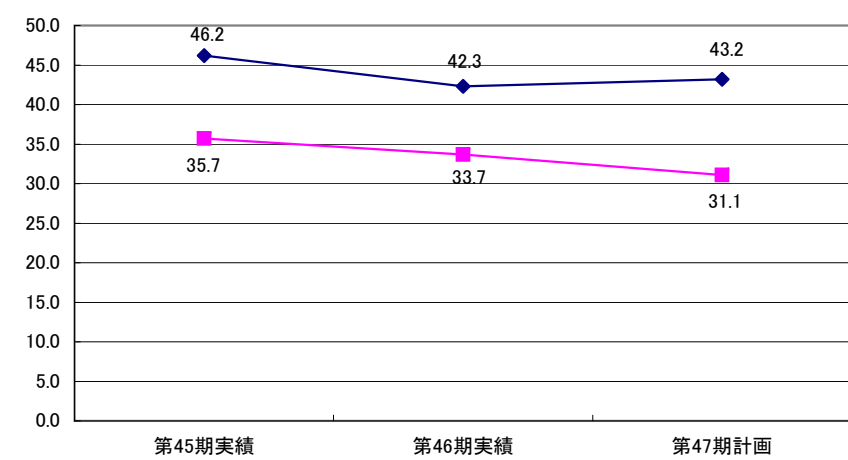


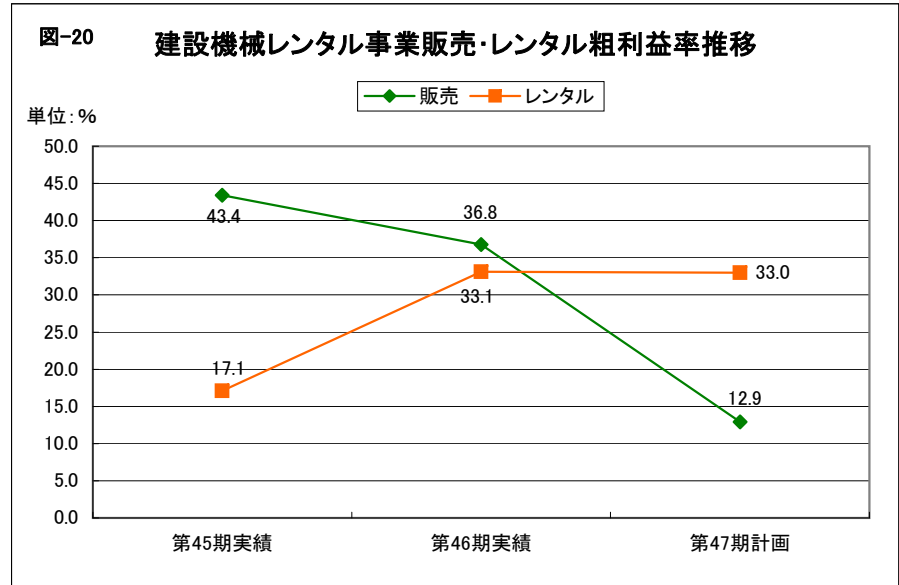
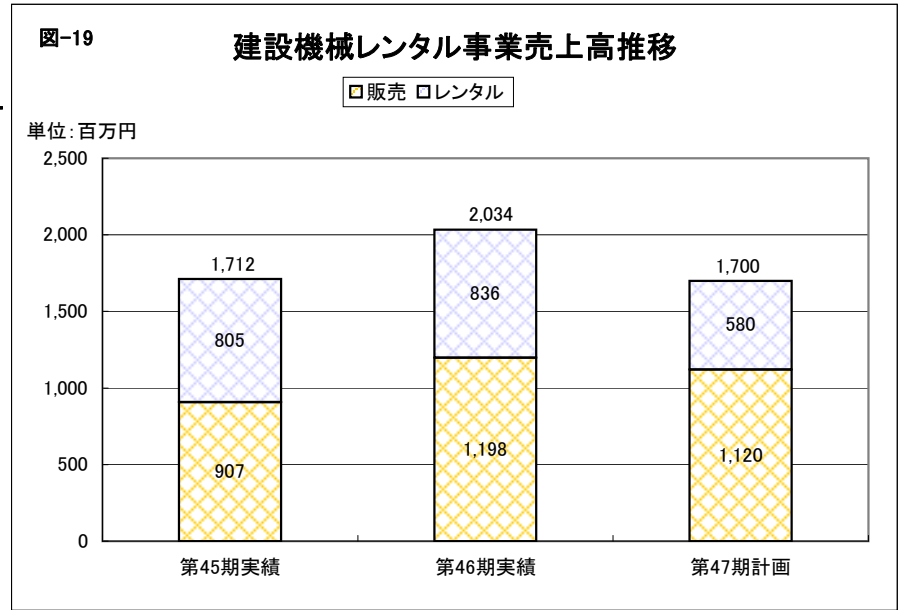
図-18 ユニットハウス事業販売レンタル粗利益率推移

単位: %



3.建設機械レンタル事業

- (1) 長期的レンタル資産効率の向上を狙い、中古建機販売を大幅に縮小する一方仕入建機販売を強化
- (2) 貸与機械の更新平準化と、運用年数アップによる原価低減、修理の内製化による修繕費の圧縮など固定費の削減を継続する



5.設備投資

引き続きユニットハウスの投資に注力し、同業の中小業者のシェアを着実に奪っていく。

また、M&Aで得た他社買取中古ハウスを、中古販売のネタとして外販し、当社ハウスに入れ替えていく。

このため、設備投資は今期も高水準に推移し、減価償却費も累積して増加する予定であるが、これは将来の収益への貯金でもある。

図-23

設備投資の推移

□貸与資産 □社用資産

単位:百万円

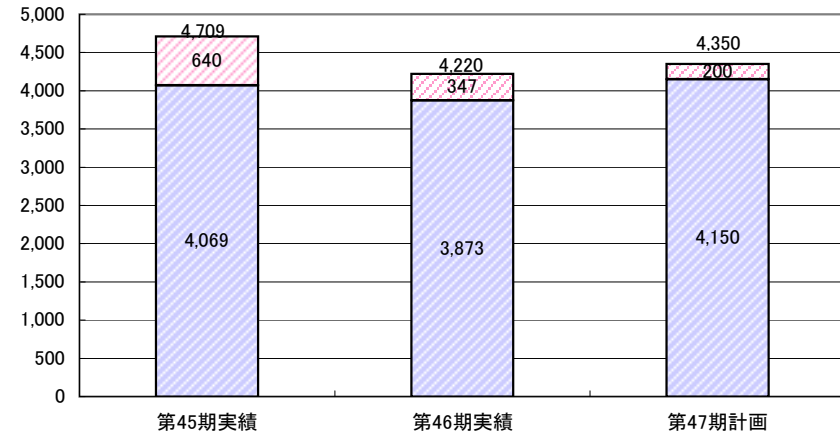


図-24

減価償却費の推移

□貸与資産 □社用資産

単位:百万円

